

《三部作：「大條家ゆかりのお茶室物語」》

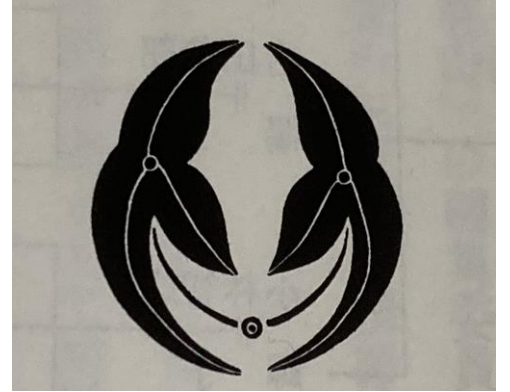
第一部

御茶室物語



伊達 宗行

2018年11月29日



大條家家紋
抱きおもだか

**山元町坂元に残された数少ない文化財の一つに、
三の丸の茶室がある。**

これは伊達政宗が豊臣秀吉から拝領したものとわれ、

**その後、大條道直が江戸末期に、
時の仙台藩主、竜山公(齊邦)から
拝領したものである。**

**しかし今日では関係する記録も少なく、
忘れられつつある。**

そこで現在集めうる記録を整理した。



大條15世道直が拝領した茶室
坂元三の丸

1. 政宗は、いつどこで茶室を手に入れたか

岡千仞の仙台志料に面白い話がある。

この物語はここから出発する。

問題の御茶室は政宗の手により

関西から仙台青葉城に移され、200年を越える歴史を刻む。

三食所毒鱸魚直仆。母在家自殺。宗輔族誅後。命族人立祀。

豊公設茶寮

豊公就天主閣下。設四所茶寮。一寮徳川公。主之。一寮前田氏。一寮納言公。一寮豊公自主之。非時招諸將。互爲賓主遊樂。一日早晨。上杉淺野佐竹加藤四氏。過納言公。以塞甚進熱蕪。加藤氏一啜損吻。豊公聞之大笑。

中村盛時

小手森役。敵勢如潮。中村盛時多力。揮大刀。仆二人。刀最上名刀。所當無敵。一兵揮朱柄十字槍。來抗。自稱勇子松本大膳。盛時亦自名。抗鬪良久。擊墜槍柄。誤遺類套。敵卒五人馳加。不敢引退。是夜大膳使來本營。贈類套。曰中村某無雙勇士。敢請厚賞。當時相傳曰。倒威狀。誠信家法。類套藏中村氏。

猪苗代兼如

猪苗代盛實。華名氏族。世領猪苗代。顯家其弟。種髮隱和歌。師僧堯惠及宗祇。傳古今集。蒼當時。子兼純爲直山公。兼純與宗悅兼純。相傳爲我所賓待。至兼如陪納言公上洛。歸途。公與東照公浴熱海温泉。留七日。點公獨吟聯歌。賜黃金。子兼與謁台徳大猷二公。賜時服白銀。家世住京師。與石井氏隔年東下。點正月七日聯歌爲例。

豊臣秀吉公
茶室を作る

秀吉公が、天守閣下四ヶ所に茶室を作った。一つは徳川公に、一つは前田公に、一つは政宗公に、そして一つは自分のものとして、気ままに諸将を呼び込んで楽しんでいた。ある日早朝、上杉、浅野、佐竹、加藤の四人が通りかかった。政宗公は呼び込んで、寒い朝なので熱いお茶を出した。加藤氏はガブリと飲んで口をやけどした。秀吉公、これを聞いて大笑い。

岡千仞著
「仙台志料」巻ノ四、十一葉
明治25年より

豊公設茶寮

伏見城下のエピソード

- ・豊公とは、豊臣秀吉
- ・納言公とは、伊達政宗

坂元茶室関連年表

平成18年9月

政宗が初めて秀吉に会った時から、豊臣滅亡まで四半世紀と、その後の要点

・政宗は、文禄の役以降、秀吉の信頼厚く、伏見に邸宅を得る。

・大條宗直も政宗に従い、朝鮮→伏見に至り、3年住む。

西暦	和暦	記事
1590	天正18	秀吉小田原攻め、政宗参陣（6月）
91	19	秀吉の奥州仕置き（9月）政宗伊達郡を失う。大條は大蔵村へ
92	文禄 1	文禄の役 <u>政宗岩手山-京都-名護屋へ。大條北目へ。伏見城建築開始</u>
93	2	<u>政宗名護屋発、朝鮮で戦闘、和議で名護屋-京都（閏9月）。伏見に邸宅を得る。大條宗直、政宗に従い朝鮮-伏見へ。3年住む。本拠蟻ヶ袋</u>
94	3	伏見城普請本格化。秀吉、秀次吉野花見
95	4	<u>関白秀次事件（7月）政宗連座を逃れ、兵千人と伏見伊達町に住む。</u>
96	慶長 1	秀吉伏見で能興行（6月）再度朝鮮出兵決定（9月）。
97	2	朝鮮で戦闘。政宗は行かず。
98	3	秀吉没、朝鮮撤兵。
99	4	秀頼伏見から大阪へ、伏見は家康、前田利家没。
1600	5	家康伏見-江戸、石田三成挙兵、関ヶ原で敗北。鳥井元忠伏見で籠城死 政宗は家康支援、12月24日仙台青葉城縄張り始め。
01	6	1月11日青葉城普請始まる。大橋完成（10月）。家康大阪-伏見-江戸
02	7	城一部完成、大阪の政宗仙台へ8月帰る。岩手山から移住始まる。
03	8	江戸幕府発足（2月）、城、屋敷、下町建設進む。
04	9	
09	14	この間、江戸、仙台、建築進む。大阪の秀頼微妙な動き
1610	15	青葉城大広間完成
13	18	支倉常長ローマへ
14	19	大阪冬の陣 宇和島伊達発足
15	元和01	大阪夏の陣 豊臣滅亡
1827	文政10	11月正山公（斉義）急死、継嗣問題浮上。大條道直竜山公（斉邦）の擁立に成功。
1832	天保03	大條道直竜山公より茶室拝領、川内屋敷に移設。
1888	明治21	川内から支倉に移設。
1932	昭和07	支倉から坂元へ、搬送は坂元駅前斉藤運送店。

2. 茶室は、いつ青葉城に移されたか

坂元茶室関連年表

平成18年9月

政宗が初めて秀吉に会った時から、豊臣滅亡まで四半世紀と、その後の要点

・秀吉の死を契機に？

・関ヶ原の役の年の暮、政宗は青葉城の縄張り始めの式

・1601～2年の建築ラッシュ

西暦	和暦	記事
1590	天正18	秀吉小田原攻め、政宗参陣（6月）
91	19	秀吉の奥州仕置き（9月）政宗伊達郡を失う。大條は大蔵村へ
92	文禄1	文禄の役 政宗岩手山ー京都ー名護屋へ。大條北目へ。伏見城建築開始
93	2	政宗名護屋発、朝鮮で戦闘、和議で名護屋ー京都（閏9月）。伏見に邸宅を得る。大條宗直、政宗に従い朝鮮ー伏見へ。3年住む。本拠蟻ヶ袋
94	3	伏見城普請本格化。秀吉、秀次吉野花見
95	4	関白秀次事件（7月）政宗連座を逃れ、兵千人と伏見伊達町に住む。
96	慶長1	秀吉伏見で能興行（6月）再度朝鮮出兵決定（9月）。
97	2	朝鮮で戦闘。政宗は行かず。
98	3	秀吉没、朝鮮撤兵。
99	4	秀頼伏見から大阪へ、伏見は家康、前田利家没。
1600	5	家康伏見ー江戸、石田三成挙兵、関ヶ原で敗北。鳥井元忠伏見で籠城死 政宗は家康支援、12月24日仙台青葉城縄張り始め。
01	6	1月11日青葉城普請始まる。大橋完成（10月）。家康大阪ー伏見ー江戸
02	7	城一部完成、大阪の政宗仙台へ8月帰る。岩手山から移住始まる。
03	8	江戸幕府発足（2月）、城、屋敷、下町建設進む。
04	9	
09	14	この間、江戸、仙台、建築進む。大阪の秀頼微妙な動き
1610	15	青葉城大広間完成
13	18	支倉常長ローマへ
14	19	大阪冬の陣 宇和島伊達発足
15	元和01	大阪夏の陣 豊臣滅亡
1827	文政10	11月正山公（斉義）急死、継嗣問題浮上。大條道直竜山公（斉邦）の擁立に成功。
1832	天保03	大條道直竜山公より茶室拝領、川内屋敷に移設。
1888	明治21	川内から支倉に移設。
1932	昭和07	支倉から坂元へ、搬送は坂元駅前斉藤運送店。

3. 大條道直は、なぜ茶室を拝領したのか

大條道直 祖道頼

大條道直、監物ト稱ス、小字ハ多門、後左衛門、姓ハ藤原、其先ハ定叟公ノ第三子、孫三郎宗行君ヲ以テ祖ト爲ス、事ハ公子傳ニアリ、道直性豪毅ニシテ明決ナリ、正山公遽カニ薨スルヤ、幕府ニ聞スルニ病篤キヲ以テス、幕府其嗣ヲキナ察シ、閣老水野出羽守ヲシテ、内命ヲ藩老ニ傳ヘテ曰、奥州病篤ク嗣ナシ、而シテ其室トナスヘキノ女、幼ニシテ未タ合番ノ禮ヲ成サスト、將軍一公子ヲ降シ以テ其女ニ配セントスト、藩老退テ同僚ニ告ク、皆曰國家長久ノ基喜フヘシ、獨道直其不可ヲ辨ス、其理ニ服シ、道直ヲシテ閣老ニ答ヘシム、道直即テ閣老ニ答テ曰、寡君病篤シト雖トモ、義子ヲ迎ヘコレヲ女ニ配ス、是其女ニ不貞ヲ教ユルナリ、義子タルモノヲ以テ義母ニ配ス、是義子ニ不義ヲ教ユルナリ、人トシテ此不義不貞ヲ行フ禽獸ニ同シ、上意ト雖モ奉スル克ハス、閣老憐ハス曰、足下食祿幾何ソ、答テ曰、一萬五千石ト、其實ハ五千石ナリ、歸リテ其狀ヲ告ク、芝多佐渡歎シテ曰、子ハ國家ノ柱石ナリ、道直曰若シ閣老ノ怒ニ遭フテ國家ニ害アラハ、吾身ヲ屠ルノミト、遂ニ議シテ龍山公ヲ立ツ、事ハ文政十年ニアリ、道直時ニ年三十二、道直國老タル十餘年、致仕ノ後是水ト號ス、明治十年歿ス、年八十二、仙臺史傳○東藩野乘ニ曰是年道直江戸ニアラス恐クハ國老芝多佐渡歎

大條道直の働き

東藩史稿

1915年(大正4年)12月9日発行

- ・伊達本家、正山公の急死による跡継ぎ問題
- ・老中 水野忠邦による 將軍庶子の送り込み策に敢然反対、撤回させる
- ・登米伊達から竜山公を迎え、伊達の血を守る

道直の時代

1796 ~ 1877

- ・跡継ぎ問題解決に功績
- ・竜山(斉邦)公 藩主に
(1829年・文政12年)
- ・論功行賞として茶室拝領
(1832年・天保3年)

西暦

1825

道直 若年寄 (文政 9)

斉義公 急死 (文政 10)

継嗣問題解決 (文政 12) 斉邦公 藩主に

1830

道直 奉行 (天保 3) 正月、二月に茶室拝領
(自宅新築、祝歌)

1835

天保飢饉 (天保 7)

利休遠忌、東洋画 (天保 10)

1840

(菊田伊洲)

慶邦公 藩主 (天保 12)

道直 引退 (天保 14)

是水、環水 と称す

広く交流 回文の仙代庵等とも

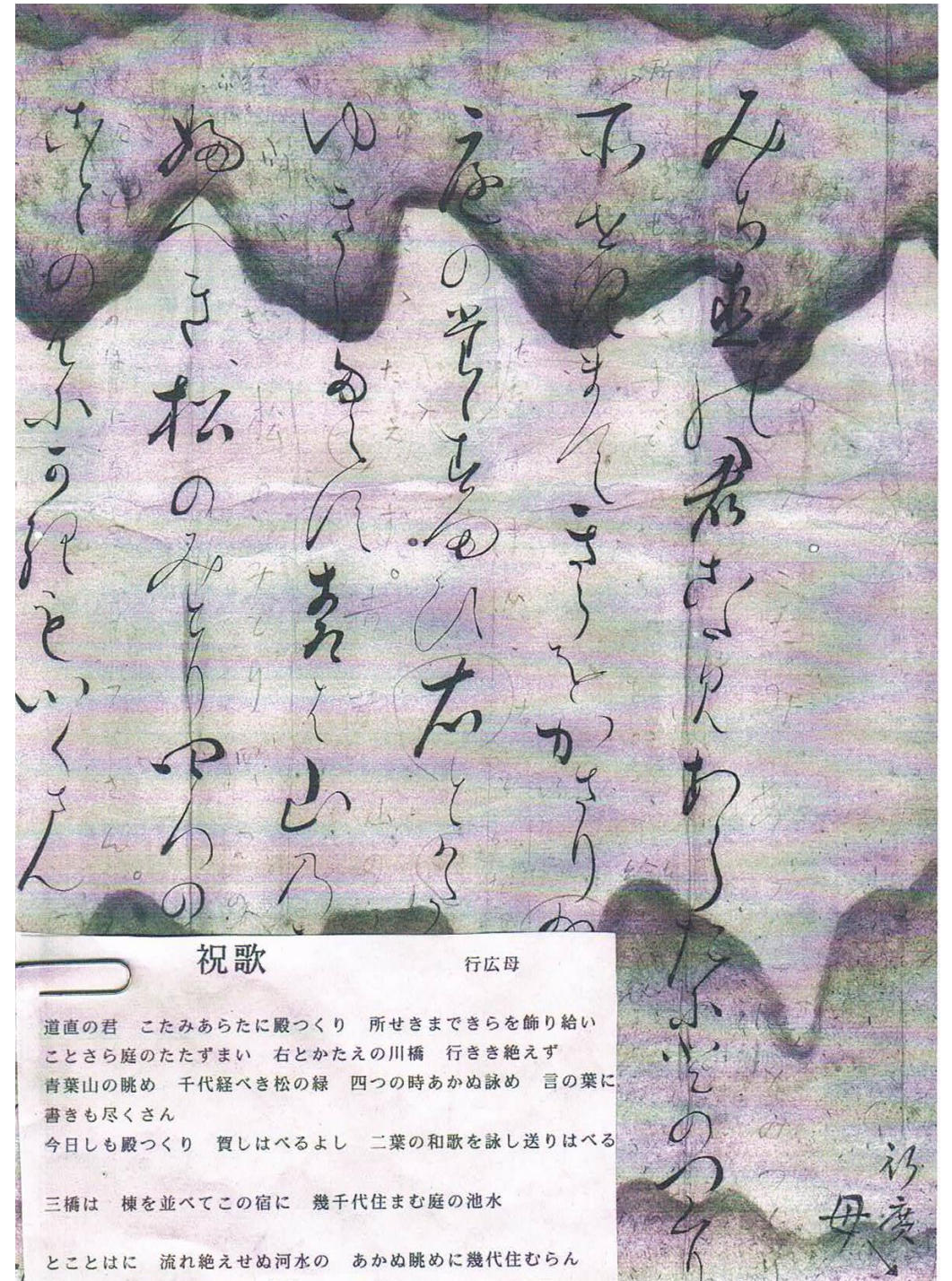
1845

祝歌 行広母

道直の君 こたみあらたに殿つくり 所せきまできらを飾り給い
ことさら庭のたたずまい 右とかたえの川橋 行きき絶えず
青葉山の眺め 千代経べき松の緑 四つの時あかぬ詠め 言の葉に
書きも尽くさん
今日しも殿つくり 賀しはべるよし 二葉の和歌を詠し送りはべる
三橋は 棟を並べてこの宿に 幾千代住まむ庭の池水
とこととはに 流れ絶えせぬ河水の あかぬ眺めに幾代住むらん

・川内の自宅敷地に、茶室移築
自宅も建て直す

・茶室移築の費用は公費



4. 茶室を舞台に

**— 栄光の茶室を手に入れた大條道直は、
これを舞台に活発な文化活動—**

菊田伊州書状

5歳年上の画家、菊田伊州
との親しい交流

東東洋の三幅対も残る

一筆一筆と仕へて
いふ事なくして
穢れ能く致す
故に老に言中
いふ事なくして
平一思惟言
十一月十日
伊州
菊田伊州様

利休遠忌記

—石州清水流 9代清水道慶

1839年(天保10年)、
京都大徳寺での、
千利休250年遠忌法要の記録

- ・千人もの参加者
- ・近衛関白も来場

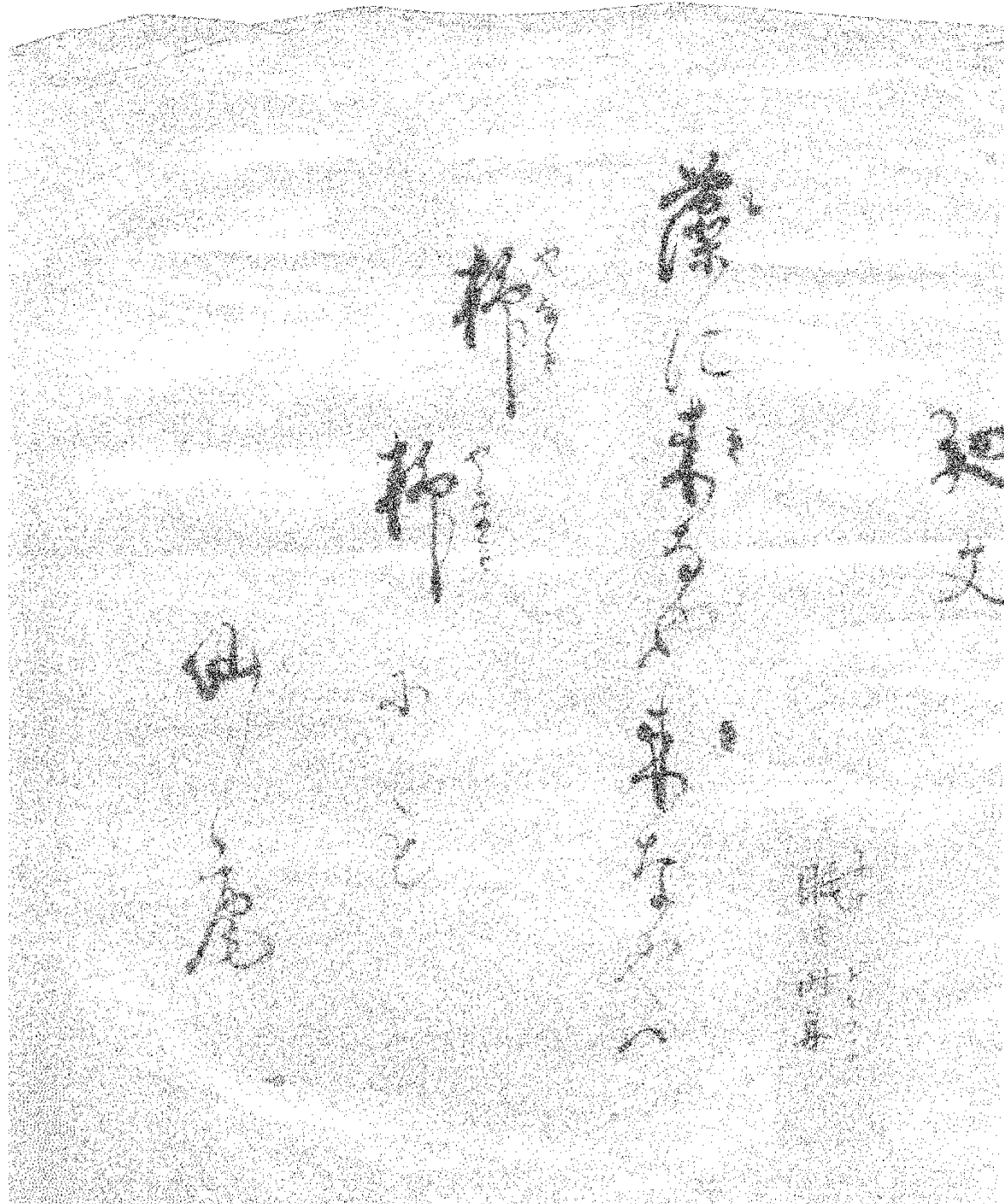
利休二百五拾遠忌記

利休の死は1591年(天正19年)である。従って250年後は1841年、天保12年になる。その2年前に京都大徳寺で遠忌法要あり。この時、石州清水流9代、清水道慶が書いたもの。その序文を見ると法事は9月27～28日、およそ千人の人を集めたという。また、9月8日には近衛関白を招いたとある。

鷲庵道慶

仙代庵の回文

- ・道直と仙代庵は、
同じ1796年(寛政8年)生まれ
- ・付き合いのチャンスは多かったか
十数枚の回文が残る



5. 明治維新後、茶室はどうなったか

一 旧幕藩体制崩壊

- ・大條道直は川内の屋敷に住み、没後も親族が維持**
- ・1888年(明治21年)、川内の土地強制買上げにより、支倉通りの新居に転居。茶室も移設**

支倉通りの茶室前 大正10年11月5日

最後の当主、
大條孫三郎道徳(宗亮)は
一家をあげて坂元に引き上げるも、
支倉通りの茶室を、こよなく愛した



氏家喜代子

大立目菊

菊地繁

伊達延

伊藤梅

三原忠男

平沢参治

伊達宗亮

伊達宗雄

伊達宗康

伊達亮治

大立目重雄

内山文雄

天童瀬代子

平沢亀一郎

大正10年11月5日

支倉茶室前

**1932年(昭和7年)、茶室は 坂元三の丸へ
- くしくも、道直の茶室拝領から100年の年**

**宗亮の長男、宗康は、
支倉通りの茶室を、坂元に移設**

**-坂元三の丸の屋敷の整備、
支倉通りの家屋の全面建て替え
に際して**



* 2002年(平成14年): 山元町の町指定文化財

**坂元の茶室が移設された年は、道直が茶室を拝領してからちょうど100年。
それからさらに1世紀になろうとしている。**

宗康の死1952年(昭和27年)以後は、住居部分を切り離されて残されているが、老朽化に加え、東日本大震災でのダメージも大きく、早急な対応が必要であり、今後どうあるべきかが課題である。

その再生を祈念する。